

「教育原理」からみた教員養成課程の教職専門教育の現状と課題

—大学図書館における「教育原理」テキストの収集状況の分析に焦点を当てて—

矢野 光恵 (安田女子短期大学)

本研究は、学生の学習権を保障する環境として、小学校教員養成課程のある大学図書館における「教育原理」テキストの収集状況に関する調査を実施して、現状と課題の把握をめざすことを目的とする。

全国 245 の大学・短期大学を選定し、1998 年以降に出版された「教育原理」という書名を含むテキストの大学図書館での所蔵を調査した。「教育原理」のテキストという限られた視点であるが、大学別・設置主体別・書名別での収集状況から教職専門教育の現状と課題を概観することができた。また、各大学が教職専門教育の観点からメディアの構成を意図的にしなければ、学修環境が整わないことが明らかになった。

キーワード：教育原理，教員養成，教職専門教育，大学図書館，メディアの構成

I 研究の背景及び研究の目的

1. はじめに

「教育原理」^{注 1)} という科目は、1949 年「教育職員免許法」公布以降、教育免許取得のための教職科目の一つとして設けられている科目である。1949 年当初の教育職員免許法施行規則では、教育職員免許法に規定する小学校又は幼稚園の教諭免許状の授与をうける場合の教職に関する専門科目の単位は『『教育心理学，児童心理学（成長の発達を含む。）』，教育原理（教育課程，教育方法及び指導を含む。）及び教育実習について、それぞれ四単位以上を習得しなければならない』と規定され、必修科目であった。木村(2014)¹⁾，知念(2018)²⁾によると、教職に関する専門科目に関する教育職員免許法施行規則の改定は、その後 1954 年，1989 年，1998 年の 3 度ある。1989 年の改定で「教育原理」が廃止され、大きな転機がやってきたが、「教育の本質及び目標に関する科目」に対応する科目として「教育原理」という名称で開講する大学が多かったため、事実上「教育の本質及び目標に関する科目」であったと言える(知念 2018)。1998 年には、先の「教育の本質及び目標に関する科目」から、「教職の基礎理論に関する科目」の中の「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」へとその枠組みと名称が改訂された。「教育原理」の発端から変遷までを見ると、必修科目から始まり、「(教育の)本質・目標」，続いて「(教育の)理念・歴史・思想」と少しずつ位置づけが変わっている。とは言え、文部科学省は教職課程の科目名称例の一つとして^{注 2)}「教育原理」を挙げており、それが教職課程における必修科目であり、「教職の基礎理論に関する科目」であることを鑑みると、教職課程での学修において学生が比較的最初に出会う基幹科目の一つとも言える。

2. 「教育原理」テキストを対象にした先行研究

「教育原理」のテキストを対象に分析した研究には、牧ら(1992)，小熊(2017)，知念(2018)がある。牧ら(1992)³⁾は、「教育原理」が開講されている大学での教科書とその内容，担当教員，実施態様などを総合的に分析している。小熊(2017)⁴⁾は、「教育原理」のテキストの書誌的分析を行い，編集方針と章立てを中心に例示しながらその内容を取り上げ，今後の方向性を検討している。知念(2018)⁵⁾は、「教育原理」294 冊のテキストについて，出版冊数の推移，共著の割合，章数の推移，各章の分類とその割合の推移などを対象に分析を行い，その内容について変遷を網羅的に把握し，考察している。

3. 研究の目的

先述のとおり、「教育原理」のテキストに関する研究は元々少なく、研究の対象は主にテキストの内容に向けられているが、各大学においてどれぐらいの「教育原理」テキストが収集されているのであろうか。授業で指定されているテキスト、あるいは授業内容も重要であるが、教職課程での学修において比較的最初に出会う基幹科目として、学生自らが学修する（した）ことから派生した疑問について調べたり、別の視点から解説されているテキストを読み比べたりする経験は、学修の過程で不可欠である。こういった学修を保障する環境として、大学図書館が第一義的に機能するが、「教育原理」テキストの収集状況に関する研究は管見の限り見当たらない。これは、教員養成課程の学修環境に関する問題でもあり、大学図書館としてのメディアの構成に関する問題でもあり、大学の教員養成教育に関する問題でもある。本研究では、学生の学習権を保障する観点から小学校教員養成課程のある大学図書館における「教育原理」テキストの収集状況に関する調査を実施して、大学・短期大学の教員養成課程における教職専門教育の現状と課題の把握をめざすことを目的とする。

II 研究の方法

1. 調査対象

文部科学省による「令和2年4月1日現在の小学校教員の免許資格を取得することのできる大学」^{注3)}一覧から、小学校教員養成課程を設置する全国246の大学・短期大学を選定し^{注4)}、その大学図書館を調査対象とした。その上で、WebOPAC及びCiNii Booksで蔵書の有無を確認できるかチェックを行い、WebOPACとCiNii Booksのどちらを利用しても蔵書の有無を確認できない1校を除く、245校の大学図書館を調査対象とした。

2. 調査方法

「国立国会図書館検索・申込オンラインサービス（略称：国立国会図書館オンライン）」を使用して、教職に関する専門科目に関しての教育職員免許法施行規則の直近の改定となる1998年以降に出版され、かつ、タイトルに「教育原理」という表記を含む図書から57冊^{注5)}を抽出した（2020年12月時点）。その際、タイトルから明らかに保育士養成・幼児教育のためのテキストと判別される図書、問題集、複数の科目がタイトルに列記されているテキストは今回の調査対象から除外している。

245の調査対象校の大学・短期大学図書館のWebOPAC及びCiNii Booksを使用して^{注6)}、抽出した図書57冊の所蔵有無をチェックした。以上のプロセスを経て得たデータを基に分析・考察を行った。

3. 調査時期

調査は、2021年1月～3月に実施し、それらを2020年度末までの図書受入データとして整理した。

III 結果

1. 大学別にみる「教育原理」テキストの収集冊数と収集率

分析の結果、57冊の「教育原理」テキストの収集率（上位20位）は、表1のとおりである。57冊の収集率50%を超えるのは11大学で、全体のわずか4.49%に過ぎなかった。

表1 大学別にみる「教育原理」テキスト57冊の収集冊数と収集率（上位20位）

順位	大学名	設置主体	合計冊数	57冊の収集率(%)	順位	大学名	設置主体	合計冊数	57冊の収集率(%)
1	東洋大学（東京）	私立	37	64.91	12	玉川大学（東京）	私立	28	49.12
2	日本福祉大学（愛知）	私立	36	63.16	12	大東文化大学（東京）	私立	28	49.12

2	関西学院大学（兵庫）	私立	36	63.16	12	立教大学（東京）	私立	28	49.12
2	安田女子大学（広島）	私立	36	63.16	12	常葉大学（静岡）	私立	28	49.12
5	日本女子大学（東京）	私立	35	61.40	12	中部大学（愛知）	私立	28	49.12
6	東北福祉大学（宮城）	私立	34	59.65	12	関西大学（大阪）	私立	28	49.12
6	東京家政大学（東京）	私立	34	59.65	18	四天王寺大学（大阪）	私立	27	47.37
8	国士舘大学（東京）	私立	31	54.39	19	文教大学（埼玉）	私立	26	45.61
9	広島大学（広島）	国立	30	52.63	19	白梅学園大学（東京）	私立	26	45.61
10	淑徳大学（千葉）	私立	29	50.88	19	名古屋芸術大学（愛知）	私立	26	45.61
10	京都文教大学（京都）	私立	29	50.88					

また次の図1は、245校の「教育原理」テキストの収集率ごとの分布状況である。収集が0冊の大学は15校（6.12%）であった。最も多かったのは、6～11冊（収集率10%台）で77校（31.43%）、次いで1～5冊（収集率10%未満）が66校（26.94%）となっている。つまり、収集率10%未満の大学図書館が全体の37.56%、20%未満を含めると64.5%を占めることとなった。

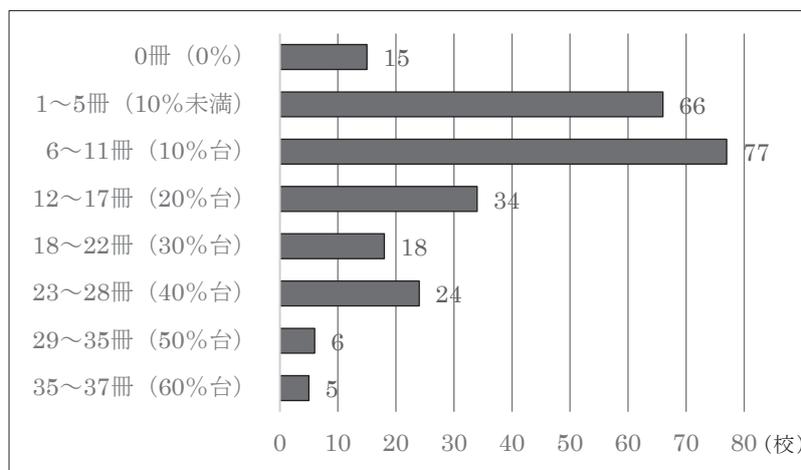


図1 全調査対象校の収集率の分布

2. 設置主体別にみる「教育原理」テキストの収集冊数と収集率

先の表1にみるテキストの収集率（上位20位）の設置主体を見ると、国立大学は広島大学の1校のみで、残りの20校は私立大学であった。全245大学の設置主体別の傾向としては表2のとおり、国立大学平均収集冊数8.29冊（平均収集率14.54%）、公立大学9冊（15.79%）、私立大学11.7冊（20.53%）と国公立大学よりも私立大学の平均収集冊数（収集率）の方が高いことが明らかになった。

表2 設置主体別にみる「教育原理」テキストの収集冊数と収集率

	調査対象数	平均冊数	平均収集率 (%)	標準偏差	最大収集冊数	最大収集率 (%)
国公立大学	57	8.35	14.65	6.66	30	52.63
公立大学	5	9.00	15.79	6.00	17	29.82
国立大学	52	8.29	14.54	6.71	30	52.63
私立大学	188	11.70	20.53	9.3	37	64.91

3. 書名別にみる「教育原理」テキストの収集冊数と収集率

書名別にみるテキストの収集冊数と収集率は、表3のとおりである。汐見他編著の『よくわかる教育原理』が最も広く収集されており、調査対象校の62.04%が収集していた。57冊中、40%以上の大学に収集されていたのは、わずか6冊であった。

表3 書名別にみる「教育原理」テキストの収集冊数と収集率

順位	著者・編者等	タイトル	出版社	出版年	合計収集冊数	収集率 (%)

1	汐見稔幸, 伊東毅, 高田文子, 東宏行, 増田修治 編著	『よくわかる教育原理』(やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ)	ミネルヴァ書房	2011	152	62.04
2	安彦忠彦, 石堂常世 編著	『最新教育原理』	勁草書房	2010	117	47.76
3	田嶋一, 中野新之祐, 福田須美子, 狩野浩二 著	『やさしい教育原理 新版補訂版』(有斐閣アルマ)	有斐閣	2011	114	46.53
4	田嶋一, 中野新之祐, 福田須美子, 狩野浩二 著	『やさしい教育原理 第3版』	有斐閣	2016	110	44.90
5	福元真由美 編	『はじめての子ども教育原理』	有斐閣	2017	102	41.63
6	田嶋一, 中野新之祐, 福田須美子, 狩野浩二 著	『やさしい教育原理 新版』(有斐閣アルマ)	有斐閣	2007	98	40.00
7	広岡義之 編著	『新しい教育原理 第2版』	ミネルヴァ書房	2014	81	33.06
7	有村久春 著	『教育の基本原理を学ぶ』	金子書房	2009	81	33.06
9	田代直人, 佐々木司 編著	『新しい教育の原理: 現代教育学への招待』	ミネルヴァ書房	2010	79	32.24
10	広岡義之 編著	『新しい教育原理』	ミネルヴァ書房	2011	74	30.20
10	佐々木司, 熊井将太 編著	『やさしく学ぶ教育原理』	ミネルヴァ書房	2018	74	30.20
12	佐々木正治 編著	『新教育原理・教師論』	福村出版	2008	71	28.98
13	中田正浩, 松田智子 編著	『次世代の教育原理』	大学教育出版	2012	68	27.76
13	寺下明 著	『教育原理 第2版』	ミネルヴァ書房	2012	68	27.76
13	池田隆英, 楠本恭之, 中原朋生 編著	『なぜからはじめる教育原理』	建帛社	2015	68	27.76
16	寺下明 著	『教育原理』	ミネルヴァ書房	2002	64	26.12
17	北野幸子 編著	『子どもの教育原理』(シードブック)	建帛社	2011	62	25.31
18	島田和幸, 高宮正貴 編著	『教育原理』(シリーズ よくわかる!教職エクササイズ)	ミネルヴァ書房	2018	61	24.90
18	友野清文 著	『ジェンダーから教育を考える: 共学と別学/性差と平等』	丸善出版	2013	61	24.90
20	広岡義之 編著	『新しい教職概論・教育原理』	関西学院大学出版会	2008	60	24.49
20	乙訓稔 編著	『初等教育の原理 / 幼稚園と小学校の教育』	東信堂	2011	60	24.49
22	乙訓稔 編著	『初等教育の原理 / 幼稚園と小学校の教育』	東信堂	2013	56	22.86
22	安彦忠彦, 石堂常世 編著	『最新教育原理 第2版』	勁草書房	2020	56	22.86
24	内海崎貴子 編著	『教職のための教育原理 第2版』	八千代出版	2017	55	22.45
25	佐々木正治 編著	『新初等教育原理』	福村出版	2014	51	20.82
26	佐々木正治 編著	『新中等教育原理』	福村出版	2010	49	20.00
27	内海崎貴子 編著	『教職のための教育原理』	八千代出版	2015	46	18.78
28	佐藤光友, 奥野浩之 編著	『考えを深めるための教育原理』	ミネルヴァ書房	2020	44	17.96
28	佐久間裕之 編著	『教育原理』玉川大学教職専門シリーズ	玉川大学出版部	2015	44	17.96

30	教師養成研究会 編著	『教育の目的・方法・制度 /教育原理 10 訂版』	学芸図書	2009	43	17.55
30	青木久子, 磯部裕子, 大豆生田啓友著	『教育学への視座：教育へのまなざしの転換を求めて：新しい教育原理』	萌文書林	1999	43	17.55
32	明星大学初等教育研究会編	『初等教育原理』	明星大学出版部	2007	41	16.73
32	池田隆英, 楠本恭之, 中原朋生 編著	『なぜからはじめる教育原理』	建帛社	2018	41	16.73
34	下司晶, 須川公央, 関根宏朗 編著	『教員養成を問いなおす：制度・実践・思想』	東洋館出版社	2016	39	15.92
35	北野幸子 編著	『改訂 子どもの教育原理』（シードブック）	建帛社	2018	38	15.51
36	佐々井利夫, 樋口修資, 廣嶋龍太郎 著.	『教育原理』	明星大学出版部	2012	34	13.88
37	中田正浩 編著	『教育原理事始め』	大学教育出版	2018	33	13.47
38	田井康雄 編	『教育の原理と実践と探究 /不確実性の時代に向けての教育原論』	学術図書出版社	2011	31	12.65
39	佐々木正治 編著	『新中等教育原理 改訂版』	福村出版	2019	29	11.84
40	西本望 編	『いまがわかる教育原理』（シリーズ 岐阜：みらいのゆりかご）	岐阜：みらい	2018	26	10.53
41	堀裕嗣 著	『よくわかる学校現場の教育原理：教師生活を生き抜く10講』	明治図書出版	2015	23	9.39
42	中村弘行 著	『人物で学ぶ教育原理』	三恵社	2010	20	8.16
43	鈴木清隆 著	『林竹二その授業と思想：日本の教育原理を求めて』	八王子：揺籃社	2015	18	7.35
44	古賀毅 編著	『教育原理』（やさしく学ぶ教職課程）	学文社	2020	16	6.53
45	青木久子, 磯部裕子, 大豆生田啓友著	『教育学への視座：教育へのまなざしの転換を求めて：新しい教育原理 第3版』	萌文書林	2010	15	6.12
46	中村弘行 著	『食育のための教育原理』	三恵社	2010	14	5.71
46	余公敏子, 余公裕次 著；小田豊 監修	『子どもの豊かな明日を育む教育原理』	光生館	2020	14	5.71
48	下地秀樹, 水崎富美, 太田明, 堀尾輝久 編	『地球時代の教育原理』	名古屋：三恵社	2016	12	4.90
49	明星大学教育原理研究会編	『現代教育改革に立つ教育の原理』	明星大学出版部	2009	10	4.08
50	麻生千明 著	『教育原理要説』	霞出版社	2006	5	2.04
51	江津和也 著	『教育の基礎を学ぶ教育原理』	大学図書出版	2017	2	0.82
52	古賀野卓 著	『未来への教育原理：子どもが育つ場をともに創る』	福岡：中川書店	2016	1	0.41
52	竹熊真波 著	『教育原理：教員を目指す学生のために』	福岡：中川書店	2016	1	0.41
52	田中正浩 編著	『教育の質を高める教育原理』	大学図書出版	2017	1	0.41
55	佐藤智広, 岩松枝実香, 近江由紀 著	『要説教育原理』	DTP 出版	2015	0	0.00
55	古谷淳 著	『教育原理授業用テキスト』	令和出版舎	2020	0	0.00
55	長澤貴 著	『教育の歴史と思想：教育原理を学ぶために』	名古屋：三恵社	2016	0	0.00

IV 考察

1. 大学別にみる「教育原理」テキストの収集状況からみた課題

Ⅲ-1. の結果のとおり、57冊の収集率50%を超えるのは全体のわずか4.49%に過ぎず、収集率10%未満の大学図書館が全体の37.56%（81校）という事実（そのうち0冊が15校）は、大きな注目点である。この結果は、教員養成を担う大学として今後計画的に資料収集を行う必要があるということが課題と言える。逆説的に言えば、ある程度計画的に収集しているということは、教職課程の基幹科目の重要性を理解した上でそれに関連する出版物を把握し、授業外での自学自習を支えたり、学修した（あるいは学修中の）事柄に対して多様な物の見方・考え方にふれたりできる環境を整えようと意図的に一連の収集活動を行っているということを示している。収集率が低い大学は、この一連の活動のいずれかの時点において脆弱だと言える。

本調査は、当該授業がテキストを利用しているか否かという問題ではなく、「大学図書館で所蔵してある」ということが前提であった。各教員の研究室に私費で備えている場合も考えられるが、あくまでも「全ての学生が自由にそのテキストの所在を知ることができ、アクセスできる」という条件が重要である。また、学生が学修の課程で大学図書館にリクエストする可能性は無いとは言えないが、そこから検討・受入・装備・排架を経て手元に届くことを考えると、学修開始前にある程度整えられていることが望ましい。

これは、「教育原理」テキスト収集だけの課題に留まっているとは考えにくい。少なくとも教職関連科目に対して各大学が関連した出版物の収集にどれぐらい力を入れているかという課題と言える。言い換えれば、「全ての学生が自由にその教職関連科目の資料の所在を知ることができ、アクセスできる」環境の実現に関わっていると言える。

それを「誰が」担うのかということは、大学によって諸条件異なるであろうが、教員養成課程の大学教員と大学図書館の両輪で行うべきである。なぜなら、これは教員養成課程の学修環境の課題でもあり、教員養成課程をもつ大学図書館のコレクション形成の課題でもあるからである。

2. 設置主体別にみる「教育原理」テキストの収集率からみた課題

テキストの収集率上位20位のうち、国立大学は1校のみで残りは私立大学であることや、平均収集冊数の結果からは特に国立大学の課題が浮き彫りになったと言えよう。表4のとおり、調査対象の52国立大学中、23大学が収集率10%未満にあたる。

中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像（平成17年1月28日）」や中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（平成30年11月26日）」において、世界最高水準の研究・教育の実施や計画的な人材養成等への対応、あるいは全国的な高等教育の機会均等の確保等について、国立大学が政策的に重要な役割を担うことが求められている。こういった、国立大学の使命に対して、学修環境や資料の充実、アクセスの充実という観点から充分に応えられているとは言い難い。例えば、「教育大学」を看板に掲げている中で、収集が5冊以下、ましてや0冊という状況は、改善を図る必要があると言わざるを得ない。

表4 「教育原理」テキスト57冊の収集冊数5冊以下（収集率10%未満）の国立大学

大学名	設置主体	合計冊数	収集率(%)	大学名	設置主体	合計冊数	収集率(%)
上越教育大学	国立	5	8.77	山形大学	国立	3	5.26
和歌山大学	国立	5	8.77	宇都宮大学	国立	3	5.26
鳥取大学	国立	5	8.77	新潟大学	国立	3	5.26
鳴門教育大学	国立	5	8.77	富山大学	国立	3	5.26
愛媛大学	国立	5	8.77	奈良女子大学	国立	2	3.51
宮崎大学	国立	5	8.77	大阪教育大学	国立	1	1.75
宮城教育大学	国立	4	7.02	香川大学	国立	1	1.75
秋田大学	国立	4	7.02	岐阜大学	国立	0	0

茨城大学	国立	4	7.02	愛知教育大学	国立	0	0
群馬大学	国立	4	7.02	滋賀大学	国立	0	0
お茶の水女子大学	国立	4	7.02	熊本大学	国立	0	0
岡山大学	国立	4	7.02				

3. 収集された「教育原理」テキストの書名からみるニーズの方向性

本調査で明らかになった書名からみる収集率は、Ⅲ-3. に示したとおりであるが、書名の傾向として大きく2つの傾向が見られた。一つは、「新しい・最新・新」といったキーワードが入っていることである(12冊)。これは収集率トップ10のうち4冊にこのキーワードが入っていた。このことから、不変的な事柄がある一方で、近年の教育を巡る変化に対応できる“情報の新鮮さ”“最新の教育事情”が求められている傾向が読み取れる。本調査の対象は、3回目の教職に関する専門科目に関わる教育職員免許法施行規則改定後に出版されたテキストとしたため、この改定を反映させたという意味での“新しさ”も加味されているだろう。いずれにしても、これらのテキストを備えるということは、“新鮮さ・新しさ”を教育の展開に取り入れる意思が示されているとも言える。

もう一つは、「やさしい・よくわかる・はじめての」という“わかりやすさ”や初めて学ぶ者への“親しみやすさ”をアピールしたキーワードが入っていることである(9冊)。これは、収集率トップ5冊のうち、4冊にこのキーワードが入っていた。裏を返せば、「教育原理」は学修者にとって、分かりにくい、親しみにくい、初めて学ぶ者にはとっつきにくいということであろう。このことを踏まえると、親しみにくく、分かりにくい「教育原理」と学修者との間の溝をどう埋めていくか、教育の方法も教職専門教育の課題の一つと言えよう。

V まとめ

本研究は授業のテキストの有無ではなく、小学校の教職専門教育をする大学の学修環境・大学図書館メディアの構成として、学生自らが「教育原理」テキストという学びの環境にアクセスできるか否かという点で行った。教育原理のテキストという限られた視点であるが、教職専門教育を担う大学及び学修環境としての大学図書館の課題を概観することができた。

実際の課題としては各大学が教職専門教育の観点からメディアの構成を意図的にしなければ、つまり、学生からのリクエストや司書任せのみでは学修環境が整わないと考える。さらに、57点中1冊も蔵書がないという大学が存在していることも課題と言えよう。何冊あれば十分という議論は難しい問題ではあるが、少なくとも学生が“幅広い選択肢”から“様々な見方や考え方”に触れ、時代の変化に伴った新しいトピックに紙媒体の資料として触れられる機会を保障することが重要だと言える。そこには、学修環境を整えようとする意図的活動がなければ実現できない。

本研究では、大学の規模や学生の在籍数によって、あるいは授業でテキストを使用しているか否かの影響が関わっているのかということについては検討できていない点で限界があるので、今後の課題としたい。

注

注1) 文部科学省は、他にも「教育原論」「教育基礎論」などの名称をあげているため、養成校によって科目名称は異なるが、本研究では「教育原理」で統一して論じる。また、研究の対象としても「教育原理」の名称に限って展開することにする。

注2) 教職に関する科目における「教育の基礎理論に関する科目」のうち「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」の名称例として、「教育原論」「教育原理」「教育基礎論」「学校と教育の歴史」「教育学概論」を挙げている。

注3) 文部科学省「令和2年4月1日現在の小学校教員の免許資格を取得することのできる大学」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoin/daigaku/detail/1287044.htm (参照日：2020.12.7)

注 4) 本研究では文部科学省のリストを元に、通学課程でかつ、小学校教諭一種免許状の課程をもつ大学・短期大学のみを対象とした。

注 5) 抽出した調査対象の 57 点のリストは、結果の表 3 の 57 点と同様である。

注 6) WebOPAC を基本とし、CiNii Books を補完的に利用して調査を行った。

引用文献

- 1) 木村拓也 (2014) 「国立大学教育学部における教育学各分野の量的変遷」林泰成他編『教員養成を哲学する：教育哲学に何ができるか』東信堂, pp.100-123
- 2) 知念渉 (2018) 「教育原理では何が教えられてきたのか？—教科書の分析を通じて—」『神田外語大学紀要』第 30 号, pp.299-318
- 3) 牧昌見編 (1992) 『教育原理の研究：教職に関する科目』ぎょうせい
- 4) 小熊伸一 (2017) 「テキストブック教育原理に関する書誌的研究」『現代教育学部紀要』 pp.35-46
- 5) 知念渉 (2018), 前掲

参考文献

- 1) 林泰成・山名淳・古屋恵太編 (2014) 『教員養成を哲学する：教育哲学に何ができるか』東信堂

A Study on the Present State and Problems of Teaching Profession Specialized Education
from the Textbook of “Educational Theory”
－ Focusing on the Analysis of Text Collection Surveys in University Libraries －

Mitsue YANO (Yasuda Women’s College)

Abstract

The purpose of this study is to investigate the collection status of “Educational Theory” textbooks in university libraries with elementary school teacher training courses as an environment to ensure students’ right to study, and to grasp the current situation and problems.

I selected 245 universities and junior colleges nationwide and surveyed the collection of university libraries with textbooks containing the title “Educational Theory” published since 1998.

Although it is a limited viewpoint of “Educational Theory” text, I was able to outline the current state and problems of teaching professional education from the “Educational Theory” textbooks collection situation by universities, university installers, and title.

In addition, it was clarified that the learning environment would not be established unless each university intentionally composed the media from the viewpoint of specialized education for teaching professions.

Keywords: “Educational Theory”, Professional Teaching Education, University Libraries, Organization of University Library Media